

解説

和久莊太郎

仕舞

八 三 野

島 山 守

小倉健太郎
朝倉 俊樹
和久莊太郎

地謡

野月 聡
大坪喜美雄
小倉伸二郎

舞囃子

船 弁 慶

宝生 和英

大鼓 亀井 広忠
小鼓 田邊 恭資

大鼓 徳田 宗久
小鼓 小野寺竜一

地謡

野月 聡
朝倉 俊樹
小倉健太郎

狂言

清 水

野村 万蔵

野村 太一郎

後見 働き

小笠原 匡
河野 佑紀

休憩二十分

能

卷

絹

野口 敦弘
小笠原 匡

ツレ
シテ
小倉伸二郎
大坪喜美雄

大鼓 亀井 広忠
小鼓 田邊 恭資

大鼓 徳田 宗久
小鼓 小野寺竜一

後見
宝生 和英
和久莊太郎

地謡

木谷 哲也
辰巳 和磨
川瀬 隆士
金野 泰大

小倉健太郎
朝倉 俊樹
野月 聡
亀井 雄二

働き

辰巳大二郎
田崎 甫

仕舞

〔八島〕

旅の僧が八島で老若二人の漁師に出会う。老翁は源平合戦の模様を語り、自分が義経の化身であると仄めかして消え去る。その夜、僧の夢の中に義経の亡霊が現れ、修羅道の苦患を再現する。

〔三山〕

大原の良忍聖は、大和三山の耳無山のひとりであり一人の女に呼び止められる。女は三山の物語を語り、桂子と名乗り回向を頼み消え失せる。弔いの内桜子と桂子の霊が現れ争うが、上人の念仏を受け去って行く。

〔野守〕

羽黒山の山伏が春日野で野守の老人と出会う。老人は『野守の鐘』と呼ばれる由緒ある池について物語る。夜になると鬼となつて現れ、天上天下全てを映すという不思議な鏡を山伏に与え、また地獄へと帰って行く。

舞囃子 〔船弁慶〕

兄頼朝と不和になり、都落ちを決意した義経は、弁慶ら一行と大物の浦へ向う。静御前との名残惜しい別離を済ませ船出すると、天候が急変し、激しい荒波とともに平知盛の亡霊が現れる。しかし、弁慶の懸命の祈祷により亡霊は退散する。

狂言 〔清水〕

主人に茶の湯の水を汲みに行かされた太郎冠者。度々申しつけられてはかなわぬと思ひ、命からがら逃げ帰った態を装い「野中の清水に鬼が出た」と嘘をつくが…

能 〔巻絹〕

都の男は、勅命により巻絹を奉納すべく熊野権現に向う途中、音無天神に参詣し和歌を手向けるが、期日に遅れた罪で縛られてします。天神の乗り移った巫女は和歌の徳を賞し、男を助け、神懸かりの態で神楽を舞う。

能の講演会

日時/25年8月27日(火) 午後6時30分

講師/和久莊太郎

会場/足利市民会館 小ホール(入場無料)

チケットをお求めのお客様へ

足利能のチケットをお求めいただいた方には10月5日(土)・6日(日)の両日に限り、史跡足利学校、足利フラワーパーク、草雲美術館、市立美術館を無料にて、栗田美術館を入場料500円にて参観いただけます。

(お1人様各施設1回有効)